

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">救急処置法演習</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間人社 2 年生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">雪村 時人 田中 静吾</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">救急処置の基礎と各種の障害に対する処置</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>救急処置とは不慮の事故により負傷した場合や急性疾患を起こした者に対し、医師が来るまでの間や医師に引き渡すまでの時間で応急的・一時的に行われる手当てをいう。医師の行う医療行為とは区別されるものである。</p> <p>受傷直後の適切な救急処置は人命救出や苦痛軽減、その後の治癒日数短縮に貢献する。多くの場合、救急処置を施すものは医師ではなく一般人である。その知識と技術を習得したものたちにより、はじめて適切な処置を行うことができる。特に、スポーツに携わるものは正しい救急処置を施すことができるように日ごろから習熟しておくことが大切である。</p> <p>この講義では救急処置の基礎知識や各種の障害に必要な処置を学ぶ。</p>		
<p>評価方法</p> <p>学年末テストの成績により評価します。</p> <p>また随時レポートを課し、その内容および出席状況も考慮します。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">健康運動実践指導者用テキスト</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">健康・体づくり事業 財団</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">南江堂</p>
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">赤十字救急法教本 スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">日本赤十字社 市川宣恭 編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">日赤出版 南江堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>1：救急処置について ～救急法の範囲、連絡・通報、そして現場での留意点～</p> <p>2：救急処置の基本 ～観察から手当ての順序～</p> <p>3：救急蘇生法① ～気道確保と人工呼吸～</p> <p>4：救急蘇生法② ～心臓マッサージ～</p> <p>5：胸痛の分類 ～分類と応急処置～</p> <p>6：外科的障害と応急処置① ～傷の手当てと止血～</p> <p>7：外科的障害と応急処置② ～骨折、脱臼、捻挫の救急処置～</p> <p>8：暑熱障害 ～水分補給と処置～</p> <p>9：意識障害 ～脳震とう、頭蓋内出血、脳貧血～</p> <p>10：包帯の施し方（三角巾を含む）</p> <p>11：運搬法の実際</p> <p>12：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任</p> <p>13：アイシング ～理論と実際～</p> <p>14：スポーツテーピング ～理論と実際～</p> <p>15：試験</p>		